

指導資料



鹿児島県総合教育センター

体育, 保健体育 第39号

—小学校, 中学校, 高等学校, 特別支援学校対象—

平成25年4月発行

「よい保健の授業」を求めて —行動変容を目指した参加型学習—

人が考え方や行動, 習慣等を変えるとき,
心の中で何が起きているのだろうか。

その一つに, 「感動」がある。

スポーツの場面においても, 一生懸命に必死に頑張っている姿を見ることで, 人は涙を流す。それは, パフォーマンスの素晴らしさに涙を流すこともあるが, 実はそれを導き出す基となった, 血のにじむような努力と周囲の人々との関わりを想起することで「感動」するからこそ, 涙を流すのではないか。

その時, 日常の自分の姿と重ね合わせ, 「これからは, 少しずつでも前向きに努力をしよう。もっと, こんな生き方をしよう。」など, 自らの考え方や行動を変えようとする。

「行動変容を目指した参加型学習」には, この「感動」が必要であり, 授業における「感動」は, 子どもたち自身の思考・判断・表現等による「気づき」と捉えた。

そこで本稿では, この「気づき」を中核として, 「『よい保健の授業』モデル」(以下, 「授業モデル」という。)を考案する。さらに, 「児童生徒の学習評価(自己評価)」を通してこの「授業モデル」を検証し, 「よい保健の授業」について述べる。

1 従来の一般的な授業

これまでの授業の多くは, 講義形式による「知識注入型」で, 健康に及ぼす害となる知識を与えておけば, 危険行動に対する否定的態度を形成するであろうと考えられてきた。また, 「リスク強調型」は, 動物実験などを用いて, よりインパクトのあるシーンを視聴させ, 危険行動を取らせないようにと考えられてきた。しかし, こうした授業だけでは, 児童生徒の行動面の変容までは, あまり望めないと考える。

2 参加型学習による授業

参加型学習とは, 児童生徒が自ら参加・体験し, グループの相互作用の中で討論したり創り出したりする学習である。表1は参加型学習の特徴と行動変容を促すための学習方法として効果が大きいと考えられる主なものを示した。

表1 参加型学習の特徴と学習方法

特徴	○ 生徒の経験, 意見, 知識を基礎にして, 授業に生かす。(授業の中で表現)
	○ 課題解決の方法を模索することで将来の「生き方」に生かす。
学習方法	○ 課題学習 ○ ケーススタディ
	○ ブレインストーミング ○ ロールプレイング

3 「よい保健の授業」モデル

「『よい保健の授業』モデル（案）」を
図 1 に示す。

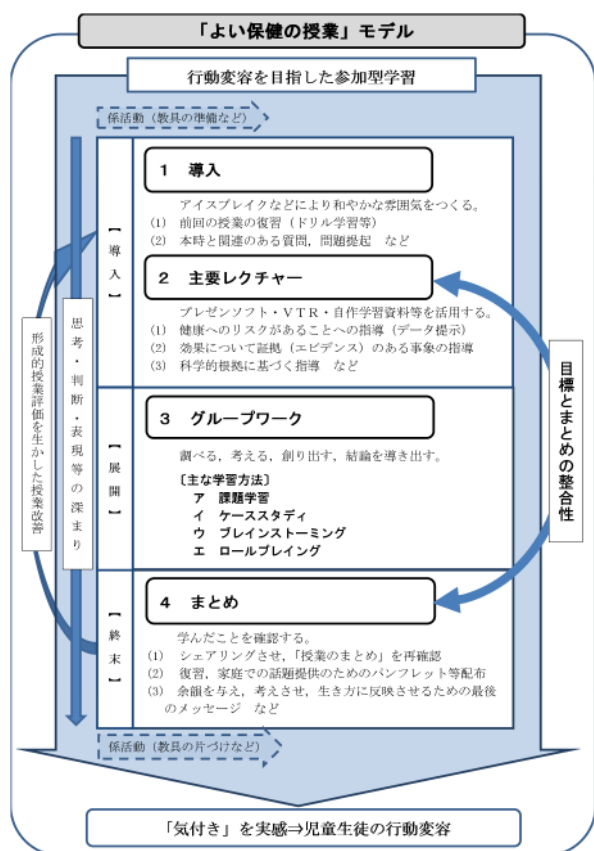


図 1 「よい保健の授業」モデル（案）

【導入】では、できるだけ本時と関連性のあるアイスブレイクなどを活用し、和やかな雰囲気をつくり、ロールプレイングなどに取り組みやすい人間関係の醸成を図る。

【展開】では、実際の生活において起こり得る自らの健康課題に対して、真剣に考えたり具体的な解決策を導き出したり、自己主張をさせたりする。また、コミュニケーションスキルやストレス対処スキルなどのスキルを練習したり演じたりする。

【終末】では、「目標」と整合した「授業のまとめ」を確実に実施する。なお、その後の児童生徒の「生き方」に反映させるための「最後のメッセージ」を伝え、余韻を残す。

図 1 の「3 グループワークにおける
【主な学習方法】」のそれぞれの「概要」と「メリット」は以下のとおりである。

ア 課題学習

- 概要
教師が課題を提起し、解決の方法を児童生徒が主体的に考え、課題を追求し、学び得たものを情報発信していくといった方法
- メリット
 - ・ 自らの力で課題を解決するという経験を積むことによって、自己有能感が高まる。
 - ・ 共同作業の中でお互いの長所や能力を認め合うことによって、自己尊重感が高まる。
 - ・ 相互作用が起こる過程において、自他の意見を調整する機会をもち、対人関係能力が育つ。

イ ケーススタディ

- 概要
日常生活で起こりそうな架空の物語で場面を設定し、児童生徒がその主人公の立場に立ち、登場人物の気持ちや考え、または、行動の結果を予想したり、主人公がどのように対処（行動や態度）すべきかについて考えたり、話し合ったりする方法
- メリット
児童生徒は架空の人物について話し合うため、自分の個人的な経験を暴露したり気恥かしい思いをしたりする心配が少ない。そのため、児童生徒の素直な気持ちや考えを引き出すことができる。

ウ ブレインストーミング

- 概要
ブレイン（頭脳）＋ストーミング（嵐）という単語の組み合わせで、発想が嵐のように頭を駆け巡るように、数多くのアイデアや意見等を出し合うという集団思考による方法
- メリット
 - ・ 「課題を発見する」場面などにおいて、グループ全員で協力しながら、よりよい課題を見つけ出そうとする時に効果的である。
 - ・ 多種多様な価値観に「気付く」ことができる。

エ ロールプレイング

- 概要
自由な雰囲気の中で現実に近い場面を設定し、演者に特定の役割を演じさせる役割演技などの疑似体験による方法
- メリット
 - ・ 自己主張をする能力の獲得が可能になる。
 - ・ 物事への視点の客観性を高める。
 - ・ 日常生活における課題への「気付き」や解決、あるいは自己を再発見できる。

4 実践例

次は、中学校3年生の性に関する指導の「課題学習」実践例である。

なお、「『よい保健の授業』モデル」による手立てなど（対応）については、プレゼンテーションソフトを活用した自作教材により示す。

【単元名：健康な生活と疾病の予防 ー性感染症の予防／エイズー】

指導のポイント			
性感染症の正しい理解と増加の原因、予防について学習する。			
(1) 性感染症の正しい知識を理解させるために、プレゼンテーションソフトやインターネットなどを活用する。			
(2) 性感染症の予防方法を身に付けさせるために、性感染症の正しい知識や増加についてのデータを活用する。			
過程	時間	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導入	15分	1 前時の復習をする。 ・感染について ・感染症について ・感染症予防の3原則について など 2 北山翔子さんの体験談を紹介する。 ・体験談「愛では防げない。無防備なセックスやめて」の紹介 3 病原体の写真を見る。 ・クラミジア ・淋菌 ・ヘルペス など 4 本時のねらいと学習の進め方を理解する。	・前時の学習内容を確実に身に付け、再確認させる。 ・本時と関わりのある発問をすることで学習内容につながりをもたせ、意欲を高める。 ・本の内容にある体験談を紹介することで、生活感をもたせる。 ・全ての写真が病原体であり、自分の性生活に関わることとして理解させる。 ・学習のねらいと学習の進め方を理解させ、見通しをもたせる。
		5 性感染症増加のグラフを見る。 6 性感染症増加の原因について考える。 ・ワークシートに記入 7 知っている性感染症について記入する。 ・ワークシートに記入 8 性感染症にはどのような病気があるのか。インターネットを活用して調べ、発表する。 ・ワークシートに記入 9 グループをつくり、インターネットを活用して「性器クラミジア感染症」について病原体や潜伏期間、症状など調べる。 ・ワークシートに記入	・プレゼンテーションソフトを活用して増加のグラフを視覚的に捉えさせる。 ・性感染症増加のグラフを見ることで、学習に対する意欲を高める。 ・自分自身で増加の原因について考え、予防方法について焦点化させる。 ・自分の知っている性感染症を全て記入させる。 ・代表的な性感染症を調べさせる。 ・インターネットの活用方法やまとめ方について、うまくできているか確認しながら、机間指導する。 ・発表した性感染症の中から代表的なものに焦点を当てる。 ・「性器クラミジア感染症」について正確に調べさせる。 ・机間を巡視し、「性器クラミジア感染症」について正確にまとめることができるか確認し指導する。 ・机間を巡視し、うまく話し合われていないところは、助言する。
展開	25分	10 グループで性感染症の増加の原因や予防方法について話し合い、発表する。 ・ワークシートに記入 11 本時のまとめをする。 ・ワークシートに記入 12 次時の学習について 確認する。	・性感染症の正しい理解と増加の原因、予防方法について理解させる。 ・増加の原因について三つ、予防方法について二つ焦点化し、指導する。 ・次時の学習内容を確認し学習意欲を高める。
終末	10分		

【授業モデル4－(3)】

〈※ 参考文献：北山翔子（2000） 神様がくれたH I V 紀伊國屋書店〉

この授業の主なねらいは、「性感染症の増加の原因について三つ、予防方法について二つ焦点化する。」ことにある。このねらいについて、自ら、補助資料、インターネット等を活用して調べ、グループで発表して結論を導き出すことになるが、【展開】において、【思考・判断・表現等の深まり】を助長させるために、「児童生徒に基礎的な知識及び技能が確実に定着しているか」ということが授業成功の鍵となる。この授業においては、事前に「感染症の原因とその予防」（2単位時間）があり、感染症のメカニズムについて十分に理解させた。また、導入においても、ドリル的に復習させて授業に臨ませた。

（【授業モデル1ー(1)・(2)】）

5 児童生徒の学習評価による検証

「『よい保健の授業』を求めて」実践を進め、日常的に「児童生徒の学習評価」を活用して、検証した例を述べる。

【学習評価(例)】

ビデオや新聞記事など、性感染症やエイズについて他人事に感じられなかったが、身近な病気という気がした。私は性感染症やエイズについて知識はあまりなかったのですが、今日の授業で、病気の人のいけんなどもなくなり、その病気についてもっと知りたいという気持ちがかきたまってきた。自分がもし、性感染症やエイズにかかたら、どう対処すればいいのか、もし、自分の周りにその病気にかかり、困っている人がいたら、私はどうすることができのかということを考え、授業をしっかりと理解することが出来た。

これから、その病気などにかからないように、授業で教わったことを生かしていきたいです。

(※下線は、筆者によるもの。)

現在まで、蓄積してきた学習評価をまとめると次のようになる。

- ・ これからの将来に、授業で学んだ知識やスキルを有効に活用していきたい。

- ・ 授業で学んだ行動については、知らなかったもので、少しずつ身に付けたい。
- ・ アイスブレイク、ロールプレイングなどに取り組むと楽しく授業が受けられる。

「行動変容を目指した参加型学習」を実践することで、明らかに保健の授業に対する興味、関心は高くなった。学習評価にも将来の「生き方」を見通した記述が多くなった。

児童生徒の行動を変えるためには、「知識注入型」や「リスク強調型」の授業だけでは十分ではない。知識が豊富な教師でさえも、自らの健康課題に対して適切な行動がとれるとは限らないのである。

これからの保健学習は、単に教え込む、覚え込むものと捉えるのではなく、課題学習やブレインストーミングなどを通して、「思考・判断・表現等を深め」ながら、「気づき」を中核としたロールプレイングなどに取り組み、行動（スキル）を学び、更なる「気づき」を深めていくことが必要である。

「知識注入型」や「リスク強調型」を否定するのではなく、「参加型学習」を含めバランスよく指導することが必要であり、さらには、「授業の成否は受益者である児童生徒に真摯に聴いてみる。」そのことが、ひいては、「よい保健の授業」の実現につながることを信じてやまない。

ー参考文献ー

- 川畑徹朗編著『J K Y B ライフスキル教育プログラム』2006, 東山書房
- 松本眞一編著『これならできる現場体育』2007, 出版企画あさんてさーな(教職研修課)